

初めから漢字を

初め、かなを習った者と、初めから漢字を習ったものとは、読書するようになって、読書のスピードが全く違うのです。頭の働きの良い子は、初め、かなから入った者でも、かなりの読書のスピードがありますが、それでも初めから漢字を習った子供にはとても及びません。

かなは、音声言語を表わしたものですから、逆にかな文字から音声をたどってその言葉を理解します。だから、かな文字で書かれたものを読むのは、音声言語を話す速度より速くても、また遅くても理解しにくくなります。

ところが、漢字は、事物を直接表わしていますから、その文字を目にした瞬間にそれを読み取れます。“山、川、花、雪”というような漢字だけではありません。“電車、汽船、絵本、鉛筆”は勿論、“自動車、冷蔵庫”というような言葉でも、一瞬で読み取れます。

渡辺茂(東大工学部教授、工学博士)先生の実験によりますと、暗室の中に置いた漢字カードが、わずか百分の一秒のフラッシュで読み取れる、ということです。そのように、漢字は一瞬のうちに理解できるもの

ですから、漢字を多く用いて表記された文章は、どんなに速くした音声よりも数倍も速く、目読することが出来るのです。

だから、初めから漢字で習った幼児は、初めから、「文字を一瞬のうちに読み取る」習慣を身につけます。音読する場合にも、先に目で一瞬のうちに読み取り、理解し、その上でそれを音読します。

ところが、初め、かなを学習した幼児は、書かれた文字を、言葉を話すのと同じ速さで発音し、その発音から言葉を想起し、理解するのです。漢字を理解してから音読するのと全く逆であり、スピードが全く違います。

「読書は成長するにつれて速くなる」と言いますが、初め身についた習慣は、なかなか改まるものではなく、まず改まらないのが普通です。